

2018 年 ハローアルソン・フィリピン医療ボランティア 活動報告

日時 : 2018 年 2 月 8 日～11 日

場所 : フィリピン共和国 マニラ市 近郊スラム

参加者

・医師	1 名	・学校教員	2 名
・歯科医師	20 名	・一般参加者	10 名
・薬剤師	3 名	・高校生	46 名
・看護師	4 名	・中学生	4 名
・歯科衛生士	14 名		
・歯科技工士	4 名		
・歯科助手	6 名		

現地参加者・・・114 名

現地通訳・・・20 名

現地スタッフ・・・約 100 名

総勢・・・・・・約 234 名

物資配布総数・・・・・・ 580 名（歯ブラシ 10 本・タオル 2 枚・石鹸 2 個 お米 2 キロ）

2018 年 2 月 8 日 「集合」

AM: 7:15

大寒波が日本列島に押し寄せ今年は全国各地で記録的な大雪が降りました。2 月上旬、日本海側では電車やトラックなどが立ち往生し、何時間も車中に閉じ込められてしまっている中、地域住民の人たちが“おにぎり”や“暖かい飲み物”などを差し入れしている姿は日本人が持つ「困ったときはお互い様」の精神に心が温まります。

そんな映像を見ながら、2 月 8 日、その大雪の中全国から 114 名の参加者たちが成田空港に集合します。無事全員が集合できることを祈りながら空港に着いてみれば、懐かしい顔ぶれや少し緊張気味の高校生たちの顔が見えます。



全員が搭乗手続きを終えいよいよ今年の活動が幕を開けようとしています。

しかし、実は今年、現地参加希望者は出発数日まで 115 名でしたが静岡県から毎年参加をして下さっている歯科衛生士山口さんのご家族にご不幸があり急遽参加ができなくなってしまいました。彼女は歯科衛生士チームの核となる存在で、だれよりもこの活動を楽しみにしていました。彼女の不参加はとても残念ですが彼女の思いも一緒に頑張ろうと誓いました。

AM：8：30 「空港内 朝のミーティング」

参加者が各班に整列し朝のミーティングが始まりました。この活動で参加者全員が一堂に会するのはこれが初めてです。事前に顔写真が入った資料は手にされていますが年齢も職業も地域も違う人たちが今この成田空港で一つの志のもとに集まってくださいました。事務局から現地到着までの注意事項が説明されます。



今年はどんな活動が待っているのでしょうか。

PM：13：30 「マニラ・ニノイ・アキノ空港到着：気温 29 度」



約 4 時間の飛行時間を終えいよいよフィリピンに到着しました。日本の気候とは真逆の暑さ。気温 29 度、湿度も少なく肌に突き刺さるような日差しと南国の独特の匂いが何故か懐かしさを感じさせます。

日本から各自手荷物として 10 キロの物資を一袋ずつ持参して頂きました。これは物資輸送には大変費用がかかるため、現地で配布する物資を少しでも多くするために 4 年ほど前から始めました。その荷物を参加者全員で手早くバスに詰め込みます。

PM：15：00 「物資配布活動 および 器材準備」

毎年マニラに到着するとまずはホテル近郊のスラムに行きマニラ・ロータリークラブと一緒に物資の配布活動を行っています。しかし今回はA班・B班に分かれての別行動となりました。その理由は現在フィリピンでは政府の政策によりマニラ市内の治安向上維持のために以前は多数存在していた数千人単位の大きなスラムを解体しました。そのため大規模な支援を必要とする地域少なくなり、200人程度の小規模なスラムが点在する形になったからです。そのため今回はA班は高校生を中心とした物資配布チーム、B班は大人を中心とした器材準備チームとなって別々の活動を行いました。

A班 「物資配布活動：719 Zone 78 District 5 Venue」・・・・・・支援人数 80人

この地域はマニラ市内の中心部に位置しています。都会のスラムは周囲を高層ビルに囲まれているため一見どこにその集落があるかわかりにくいのが特徴です。現に、このスラムは私たちが滞在するホテルから10分足らずの場所にあり、日本人だけではなく現地の人たちでさえ夜間の一人歩きは危険と言われているほどです。



今回、この集落に住むお年寄りの方々を中心に80名に物資を届けて参りました。高校生が中心となり一人につき「歯ブラシ10本・タオル2枚・石鹸2個・お米2キロ」を一袋として手渡します。みなさんとても嬉しそうな笑顔です。はじめは緊張していた高校生たちも彼らの「サラムッポ・ありがとう」という笑顔に次第に緊張もほぐれ、所々で笑顔の輪が広がっていきました。

B班 「器材準備」

物資配布は高校生たちをお願いをして大人の皆さんは空港から直接ホテルに向かい、すべての物資と器材をホテル内に設けた「器材部屋」に搬入します。このホテルはすでに10年以上活動時に利用しておりホテル側も私たちの活動をととても理解してくださりそのご厚意からホテル内の倉庫に無料で私たちの器材を保管して頂いています。

器材担当 岡山県 きもと・まなべ歯科医院 木本先生、東京都 戸田先生 が中心となって事前に日本で年密な打ち合わせのもと明日から使う全ての医療器材をチェックします。

PM：16：30 「ホテル内 全体ミーティング」

A班のメンバーがホテルに到着しました。「お疲れ様」「どうだった」高校生にみんなが声を掛けます。器材もすべて搬入が終わりホテル内の会議室を利用して「全体ミーティング」が始まります。

会長からこの活動に参加をしてくださった皆さんへお礼の言葉をいただき、現地統括責任者 いまにし歯科診療所 今西先生からこれから 4 日間の活動の注意事項が伝えられます。そして、全参加者が一人ひとりの自己紹介が始まりました。高校生たちは出発前、日本で各支部に分かれて最低 5 回以上の研修を受けています。そして一般参加の方々は 11 月末に東京で一般参加者を対象とした説明会を受けていただいています。今、全参加者が初めてお互いの顔と名前を認識し合います。2018 年のハロアルチームが今結団しました。

PM：19：00 「夕食」

マニラに到着して初めての夕食です。今年はホテルから 15 分ほどのレストランとなりました。114 名の参加者、通訳の皆さんと共に楽しい食事会が始まります。

私はこの夕食の時間はとても大切だと思っています。私たちの活動はバスの移動、食事、空港内、すべて「班行動」となっています。この活動には未成年の参加や初めて参加をされるかたも大変多く初めはとても緊張してらっしゃいます。そして明日からはいよいよ医療奉仕活動が始まります。各班にはそれぞれ班長がおり、移動の際は必ず点呼を取ります。今年は全部で 10 班の編成となり数年参加されている方や初めての方、高校生や一般の方みんなが食事を通じてより親睦を深めこの 4 日間チーム一丸となって活動をおこないます。

今年の乾杯の発声は静岡県から 3 回目の参加となった てんま歯科医院 鈴木先生です。実は今年唯一の高校 3 年生参加となった長女と 2 年生の次女と一緒に 3 人で参加をしてくださいました。その長女は春からなんとお父さんと同じ道を歩むべく歯科大学に進路が決まり、技術や知識だけではなく医療の原点である「心」を学びにこの活動に参加をしてくださいました。

PM：21：20 「高校生 マニラ・ミーティング」

この活動では毎晩約 1 時間半、「高校生 マニラ・ミーティング」を行います。これは全ての高校生を対象とし、毎年一つのテーマにそって自由に意見を述べてもらう会です。今年のテーマは「夢」。このミーティングは答えを出すためのものではなく、活動を通じて感じたこと、思ったこと、なんでも自由に話してもらいます。もちろん、人前で話すことが苦手な生徒もいます。声が小さかったり震えたり、中には感極まって涙を流す生徒もいます。また、発表しないのも自由です。しかし、私は高校生に伝えます。「明日からもう一生会うこともできないスラムの人たちに人生で最初で最後になるかもしれない治療を行います。そしてこの活動に参加をして私たちが活動ができるのも、日本で沢山の人の協力があるからです。その思いを真剣に考えて欲しい。もちろん、人前で話すことは緊張するかもしれない。苦手かもしれない。しかし、その殻を自分自身の力で破り、みんなのように夢を抱けず、生きることが夢と語る子供たちのために、今変わらなければ、いつ変わるのでしょうか。」



高校生たちの 3 日間が始まります。
現地統括責任者 今西先生の進行で今年も高校生マニラ・ミーティングが始まりました。次々と高校生が挙手をします。
※この高校生マニラ・ミーティングの内容は冊子となって当院で販売をしております。
詳しくは当院までご連絡ください。
(売り上げのすべてはこの活動に寄付されます。)

2 月 9 日 活動 2 日目 医療奉仕活動初日 「San Rafael Balut : Tondo」

患者人数・・・610 名

AM：5：00 「起床」

今年で 13 回目のマニラの朝を迎えました。カーテンを開けると見慣れた風景とまだ日が明けきれぬ中既に町が動き出しているのが見えます。

本来はホテルの朝食時間は朝 6：00 からですが、私たちの出発時刻が早いいためホテル側が特別に 15 分前より朝食をとることを可能にしてくれました。

会場に行くと既にメンバーたちが元気に朝食をとっています。いよいよ今年の医療奉仕活動に出発します。

AM:7:00 「出発」

既にホテル前には大型バス2台と器材や物資を運ぶ中型のバス2台が待機しています。ここからは事前に編成された班に分かれバスに乗り込みます。先頭にはマニラ・ロータリークラブの救急車が先導してくれます。マニラ市内は早朝から大変車の渋滞が多いため救急車がサイレンを鳴らしながら私たちの移動時間のために先導をしてくれるのです。

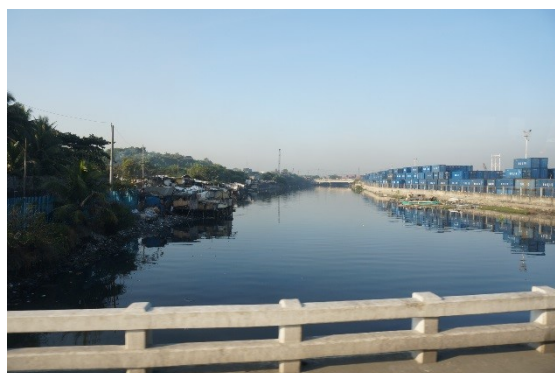


AM:8:00 「到着」

この地域は「トンド」と呼ばれています。ここは1980年代後半「フィリピンの貧困の象徴」と言われたゴミの収集所「スモーキー・マウンテン」が存在していた場所です。フィリピンでは日本のようなゴミの焼却システムはなく、当時ここには毎日マニラ市内から数千トンのゴミが運ばれ埋め立てられていました。そしてそのゴミの中からお金に換金できるものを拾い生活をしている人々を「スカベンジャー」と呼び、1995年に閉鎖されるまで数万人がここで生活をしていました。現在はパヤタス地区に移動となりましたが、今でも多くのスカベンジャーが住んでおり、川沿いには無数のスラムの住居が存在しています。

私たちがこの地域で活動するのは今回で3回目となります。バスの窓から久しぶりに見る光景は数年前と何も変わらず、マニラ市内の治安が向上されたことによって起きた貧困の歪はこうして郊外のスラムに更なる貧困を虐げているようにも思えます。

この地域には約4万人の人たちが生活しています。住民たちは主に工場勤務が多



く一日の収入は約 300 ペソ（日本円約 620 円）で食事は主に昼と夜の 2 回です。就学率は小学校は無料のためほぼ 100%ですが中学校は有料のため約 60%ほどです。また、この地域で病気になった場合は無料の診療所はあるものの、薬は在庫次第でそのほとんどが十分に行きわたることはありません。特に歯科治療に関しては非常に高価で診療所も少なく、痛みがある場合は極限まで我慢をし、最後は抜歯となってしまいます。

AM: 8:30 「治療準備」



ここではスラムの中心に位置する教会を治療会場として使わせていただきました。信仰心の厚いフィリピンの人たちの神聖な場所で初めて行われる医療ボランティアに沢山の人が列をなしています。

みんなで協力してバスから器材、物資を会場に運びます。広々とした歴史ある教会の中が見るうちに治療会場と変化をしていきます。

私は皆さんが手際よく準備を進めている中、14 年前、初めてこの活動に参加をしたときのことを思い出していました。わずか 20 人程度のチームで日本から大きな荷物を抱え、物資や器材を運びました。歯を削る道具はわずか 2 基。充電式のため充電が切れれば治療はそこで終わってしまいます。抜歯の器具、材料、薬、そのほとんどは医院からの持ち出しで行われていました。あれから 14 年、今では沢山の方々の支援のお陰で可能な限りの器材を準備することができました。また、この膨大な器材の管理を岡山県きもと・まなべ歯科クリニックの皆さんが管理をしてくださるお陰で、細分にわたり準備できることは本当にありがたいことです。

今回は「検診ブース」「物資配布ブース」「抜歯ブース」「保存（歯を削って治す）ブース」「クリーニング・ブース」「入れ歯ブース」「耳鼻科ブース」「投薬ブース」「消毒ブース」そして今年、初の試みとなった「シャワー・ブース」の 10 ブースが作られました。



各ブースの準備が整いました。

今西先生の号令のもと治療開始前の朝礼が始まります。

外にはすでにたくさんの住民が治療を待っています。

会長 林先生のあいさつです。「みなさん、心を一つにしましょう。お互いを信じ、お互いを助け合って、一人でも多くの患者さんのために全身全霊で感謝の気持ちを持って頑張りましょう。」

いよいよ 2018 年の医療奉仕活動が始まります。

AM : 9 : 15 「医療奉仕活動開始」

「新設 シャワー・アクティビティ」

今年の活動では新たな試みとして「シャワー・アクティビティ」が行われました。これは以前現地スタッフでもあるマニラ・ロータリークラブとの会議の際、彼らが不定期で行っているボランティアの中で、消防車や給水車を利用してスラムの子供たちの体や髪の毛を洗ってあげる活動をしていることを聞きました。スラムでは石鹸やシャンプーはもちろん水さえとても貴重です。基本的に生活用水に使う水は購入しなければなりません。それをまず食事に使いその後食器を洗う、そして選択やその他に使いその余った水で体を洗います。そのためスラムではほとんどがドラム缶のようなところに余った水や雨水を溜めたり、時にはスコールなどが降ると子供たちは一斉に外に飛び出し、「天然のシャワー」として利用しています。



今回、私たちは治療会場の隣に現地スタッフと共同で2基の簡易シャワー・ブースを作りました。

周囲を外側から見えないように囲い、対象年齢を5歳～10歳までとし、女兒には女性のスタッフが担当します。担当者は介護用のエプロンと手袋をし、皆さんから頂いた石鹸やシャンプーを使い子供たちの体や頭を洗いました。もちろん洗った後には皆さんのバスタオルで体を拭きそれをプレゼントしました。

当初2日間で200人を予定していましたが、どのエリアも大変希望者が多く2日間で延べ446人の子供たちを洗うことができました。

真っ黒に汚れた体、汗と埃にまみれた髪の毛、子供たちは大声で騒ぎながらとても嬉しそうに体を洗ってもらっています。

このブースには看護師・介護士を中心に高校生もお手伝いをしました。皆どの顔も本当に楽しそうです。

私たちのたった一度の行動に何の意味があるのだろうかと思われる方もいらっしゃるかもしれませんが。私にもその答えはわかりません。しかし、この日、この瞬間、確かにここには国境を越え、世代を超え、貧富の差を超え、人間同士の心の優しさと笑顔があったことに間違いはありません。

「医療奉仕活動」

このエリアでの活動は3回目となります。それぞれ会場は違いますが共通していることはやはり「抜歯」を希望される患者さんが多いことです。それは貧困のため限界まで虫歯を放置せざるを得ず、それだけ病状が悪化をしているということです。

まず、患者さんは受付でカルテに名前と年齢、性別を記入します。その際「治療チケット」を受付渡します。これはこのエリアで活動が決定してから公平性を期すために現地スタッフが地域で最も貧しい家庭を調査しその家庭から1名だけに治療を受けていただくように準備してくれたものです。そして受付を済ませると「物資配付ブース」で「歯ブラシ8本・石鹸2個・タオル2枚」を受け取り「検診ブース」にやってきます。



そして私が担当する「検診ブース」にてどのような治療を希望するか問診をし、お口の中を検診し、「抜歯」「保存」「クリーニング」「入れ歯」のブースに誘導係によって移動していきます。

開始約30分。既に各ブースに設置されている待機椅子に多くの患者さんが座って順番を待っています。

この治療の選択については第一優先されるのは「患者さんの希望」です。たとえ私たちが抜歯治療が適切だったと考えても強制的に行うことは決してありません。将来的に大きな痛みが発症する可能性があったとしても本人や家族が承諾しない場合はその内容を通訳を通じてしっかりと説明し、患者さんが希望する治療をできるだけ可能にすることを徹底しています。そのため、小さな子供が痛みを訴えていても本人が怖くてどうしてもできない場合、隣からお母さんが説得をするケースも少なくはありません。しかし、異国から突然やってきた我々にいきなり歯を抜かれる子供たちのことを思えば、私

はお母さんとその本人にやさしく説明をさせてもらって、お薬だけを処方する場合があります。

また、「入れ歯」に関しては限りある時間と材料、労力によって全てを受け入れることはできません。その為、入れ歯希望者の治療はまさに順番という「運命」が大きな鍵となってしまいます。たとえ、希望をされたとしても物理的に不可能な状況であるため、希望者が来られても作ることができないことを伝えなければなりません。私はその瞬間が一番辛く感じます。まるで夢のようだ、と言いながら私たちのチケットを「神様のチケット」と呼び、数か月前から大切に保管し、やっと念願の入れ歯が作ってもらえると楽しみにやってきた人たちに、「もう作ることはできません」と伝えた時、ある老婆が私に言いました。「とても残念。しかし先生、私たちの所に来てくれてありがとう。」私はその時涙が出そうになり、彼女の手を取りこう言いました。「ごめんなさい。私たちの力が足りなくて。私ができることは日本からあなたの幸せを祈ってあげることだけです。」



「おばあさん、元気でね。」彼女はとてもやさしい笑みを浮かべながら私に「サラマツポ・ありがとう」と言いながら何も治療を受けることなくスラムに帰って行きました・・・。



「抜歯 日本では治せる歯も・・・」

スラムでの治療は日本のような器材や材料の不備はもちろん、継続的な治療ができないため痛みを伴う歯、または今後強い痛みを誘発しそうな歯のほとんどが抜歯になってしまいます。特に子供たちは慢性的に栄養不良のため、虫歯1本の歯が全身に波及し死亡してしまう子供も少なくはありません。その為ここではたとえ虫歯であっても命の危険が生じる可能性がある重大な疾病へと繋がります。



また、この地域は1本の歯ブラシがお米1.5キロよりも高価であり、今日食べることに困窮するスラムの人たちにとってたった1本の歯ブラシを買うことは大変難しいことなのです。その為、子供たちのほとんどが複数本の虫歯を有しています。特に永久歯の中で最も初めに生える「6歳臼歯（第一大臼歯）」は必ずと言ってよいほど虫歯になっ

ているかもしくはすでに抜歯されているかのどちらかです。歯はご飯を食べるためだけでなく、人間の成長や脳の発育、寿命にまで関係する大切な臓器です。しかし、彼らは貧困という人間の我欲の歪がもたらした最大の犠牲者となり、たった1本の歯ブラシにも困窮するのです。

私の前に一人の小さな女の子がやってきました。彼女は強い痛みを訴えながら右側の奥歯を指さします。お口の中を見ると黒い穴が見えます。それは深部まで達する虫歯からくる急性の痛みでした。日本ではもちろん治療が可能です。しかし、この痛みを取るにはここでは抜歯しか方法がありません。私はふとカルテを見ました。そこには年齢の欄に「9」の数字が書かれています。彼女はこの大切な6歳臼歯をたった3年足らずで失わなければなりません。私は一瞬抜歯を指示するペンを動かすことができませんでした。それはわずかに数秒足らずの出来事だったかもしれませんが。しかし私には何時間も時間が止まったような瞬間でした。私はそのカルテに抜歯を指示し彼女に伝えました。「頑張ってるね」彼女はにこやかに微笑みながらこれで痛みからようやく解放される安堵感から嬉しそうに抜歯ブースへ歩いていきました。

会場は沢山のスタッフや患者さんでひしめき合っています。私には彼女の背中をただ見つめることしかできませんでした・・・。

PM: 15:30 「活動終了」

医療奉仕活動が終了します。各ブースの片づけが始まり、皆で協力しながら器材をバスに運びます。最後の患者さんが出口を後にする時、自然と会場から拍手が沸き起こります。それはみんながお互いの健闘を称えあい、活動が無事終了したことの安堵感と達成感、そしてどこか胸の中に引っかかるような切なさを感じます。



会場となった教会に夕日が差し込みます。先ほどまで治療を受けていた住民が別れを惜しむようにバスを取り囲みます。おそらく最初で最後の出会い、最初で最後の治療でしょう。彼らはいつまでも私たちのバスを見送ってくれていました・・・。



2月10日 活動3日目 医療奉仕活動最終日 「Brgy .Pineda .Pasig City」

患者人数・・・・・・967名

AM:7:00 「出発」

マニラ市内は世界的にみても大変渋滞が多い街です。その理由の一つは信号や道路などのインフラ整備のほかに、公的なバスや電車、地下鉄などの普及がないため個人の車やジプニー、トライシクルなどがひしめきあって走っているからです。

そのために通常ならば40分程度の距離も時間によってはその倍の時間を有するときもあります。今回の地域も距離的にはさほど遠くはありませんが、早朝より大変渋滞が多いために今回はマニラ・ロータリークラブと地元警察が私たちの活動時間を少しでも多く治療ができるように協力をしてくださり、白バイ4台と救急車で私たちのバスを先導してくれました。



早朝からマニラ市内にサイレンが鳴り響きます。

私たちの前を通る全ての車やバス、ジプニーを移動させ、信号はもちろん、時には反対車線や交差点を全て止めて私たちのバスを最優先に通過させてくれました。

そのおかげで本来ならば1時間以上かかるエリアもわずか30分ほどで到着し、予定時間よりはるかに早く準備が整い治療が開始されました。

「川沿いに並ぶスラム・・・そして目の前には沢山の高層ビル・・・」



この地域は川沿いにマカティと呼ばれるフィリピン第二の商業都市に近接しています。大きな川に分断され向こう側には沢山の高層ビルが立ち並び貧富の差が歴然と分かるエリアです。このスラムはもともと山を切り開いて作られたため、スラムの住居内は大変入り組んでおり、坂道や曲道も複雑な形態をしています。このエリアには約2万人の人

たちが生活をしています。ここはマカティに近いので住民たちは工場や建設現場の日雇いの仕事が多くある程度の職に就くことは可能です。しかし、その収入の差は大きく1か月に500ペソ（日本円で1200円）～18,000ペソ（日本円で37,000円）ほどあります。食事もスラムに住む人たちは一日2食です。スラムに住む人たちの多くはトライシクル（バイクタクシー）の運転手が多く収入は一日300ペソです。しかし、このオートバイを購入し自分で稼げる人たちはほとんどおらず、オートバイをレンタルします。そのレンタル料は1日100ペソ。ガソリン代が一日100ペソ。そして残りが収入となるため、一日働いて手元に残るのは100ペソ（日本円で220円）程度しかありません。

スラムの人たちがもし歯が痛くなった場合どうするのでしょうか。この地域には無料の歯科クリニックがないために治療を受けることはできません。また、痛み止めは高価なために漢方薬のようなハーブティを飲んで我慢をするそうです。

地区のリーダーは私たちの活動を本当に喜んでくれました。生まれて初めて歯科治療にかかる人も多く、初めて虫歯の存在や痛みの原因を知った方も沢山いらっしゃいました。



AM: 9:00 「医療奉仕活動開始」

ここでは地域内の小学校にあるバスケットコートを治療会場としました。昨日の会場の約半分の広さのため各ブースの間隔がとても狭く、より注意を必要とします。

すでに入口には沢山の患者さんがチケットを持って並んでいます。

今回の医療奉仕活動の特徴としては2つの地域とも「抜歯」を希望される患者さんがとても多く感じます。

それはそれだけ貧困状況が深刻であり重度な症状の患者さん等が多いことを意味しており、限界まで我慢し続けているということです。

そしてそれと比例するように「義歯」を希望する方も大変多いです。

この地域では例え抜歯をして痛みをとったとしても次に義歯を作るためには数千ペソ必要となるためスラムの人たちにとって義歯は大変貴重なものとなっています。

私のもとに一人の女性がやってきました。年齢は54歳。口の中を見ると下の前歯が3本しかありません。その3本は全て虫歯になっています。私は「今日は何を希望されますか。」と尋ねると彼女は「歯を全部抜いてほしい。」と答えます。私は「痛みがあるの？」と尋ねると「いえ、この歯を全部抜いてもらったほうが入れ歯が安くできるから。」と言うのです。

つまり、部分的に歯が残っている場合は作る時の技術料や材料費用がかかるため。むしろスラムでは総入れ歯の方が安く作れます。

「安く作るために歯を抜く・・・。」

実はこのような光景は珍しくありません。残っている歯が少ない場合は皆一様に「全部抜いてほしい。」と希望します。

しかし、私たちの活動にも限界があります。特に義歯制作ブースでは4人の歯科技工士が昼食の時間も惜しみながら一生懸命制作してくれました。



2月11日 活動最終日 物資配布活動 「Kaingen Kawit . Cavite」

物資配布人数・・・・・・500名



この地域は私たちが10年以上支援させて頂いているエリアで私たちの数十年来の友人でもあり日本からの物資を大切に保管し、活動中は現地通訳として長年支えて下さるボンセ家の人達が住むエリアです。古くから地元の名士でもあるボンセ家の人たちはいつも周囲のスラムの人たちや刑務所や災害

地域を訪れ物資や食料の支援をされています。今回、同じ地域内の新たなバラングイ(集落)の人たち500名に皆さんから頂いた物資を届けて参りました。

この地域には約3,000人が住んでいます。就学率はわずか5~10%で小学校までで、親に仕事がないために中学校以上に進学することもほとんどいません。住民たちは主に漁業や建設現場などで生計を立てていますが、一日の収入は約300ペソ(日本円で約660円)程度です。食事は1日1回~2回で私たちが支援した物資、特に石鹸などはとても貴重なものだそうです。

ここでは高校生たちが最後の物資配布をしました。たくさんの人たちが長蛇の列を作っています。高校生たちは日本から皆さんに支援していただいた物資を一人ひとり丁寧に笑顔で手渡してくれました。私は一人物資を抱いた女性に尋ねました。「今日もらったお米はどうするの?」彼女は嬉しそうに「もちろん今日食べるわ。このお米はとても美味しそう。」私は尋ねました。「この石鹸は?」「今日すぐに子供たちの体を洗ってあげるわ。」彼女は満面の笑みを浮かべながら「来年も必ず来てね。」と言い残したスラムに帰って行きました。



新しい活動「シャワー・アクティビティ」

・今年から新たな取り組みとして5歳～10歳の子供たちを対象に「シャワー・アクティビティ」をおこないました。

これは地元マニラ・ロータリークラブの協力を得て消防車の給水車を利用し、スラムの子供たちを皆さんからいただいた石鹸やシャンプーを使い体や髪の毛を洗ってあげる活動です。スラムの子供たちは日本のように毎日きれいな水を使って体を洗うことができません。汚水や雨水を貯め、時にはスコールが降ると天然のシャワーとして一斉に外に飛び出して体を洗うほどです。また、石鹸は大変貴重な生活物資のため頻繁に使うことはできません。そんな彼らのために今回看護師、介護士を中心とし高校生もお手伝いをしながら当初要諦していた200名を大幅に超える446名の子供たちを洗うことができました。2つの簡易シャワーブースを作りましたが長蛇の列ができみんなとてもうれしそうに久しぶりのシャワーを楽しんでいました。



感謝を込めて

今年も皆様の温かいご支援のおかげで素晴らしい活動になりました。今年で13回目の活動となり、現地参加者の皆さん、特に高校生たちも年々増え益々ハロアルの輪が広がりを見せております。これからも私たちは皆さんが歯ブラシ1本に込めてくださる優しさの心をしっかりと彼らに届け、誠心誠意恵まれないスラムの人たちのために頑張っていきます。今後ともどうかご支援ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



物資配付

	2月8日	2月11日	計
物資配付	80	500	580

(物資配付内容) ハブラシ8本・石鹸2個・タオル2枚・お米2kg

医療奉仕活動

	2月9日	2月10日	計
クリーニング	142	291	433
保存	48	48	96
抜歯	171	290	461
義歯	11	14	25
耳鼻科	52	58	110
シャワーブース	186	260	446
投薬	0	1	1
その他	0	5	5
合計人数	610人	967人	1,577人